

ご案内

OPDES が世界に先駆けて発信してまいりましたカドリール競技も、少しずつではありますが皆様のご理解を得て浸透してまいりました。この間会員の皆様より数多くの励ましの言葉や御意見などを頂きましたが、委員会ではその声を反映すべく努力致しております。今回寄せられましたお意見を元に、若干の規定の改正と補足をさせて頂きましたので、間違いの無いようご確認ください。

OPDES ケーナインフリースタイル委員会

カドリール (QUADORILLE) 競技

カドリール競技とは、4名以上10名以内のチームによる、ヒールワーク（おもに脚側行進）を主体にしたチーム競技で、オビディエンスの要素を音楽に乗せてチームにて演出する競技。ステップやムーブの正確さ、ルーティンの完成度、構成要素等をチームで演出し、その一体感を競う。

(カドリールとは・・・)

17世紀、ルイ王朝時代のフランスに誕生した宮廷ダンスで、4人1組で様々なステップやフォーメーションを展開する軽快な踊りが語源。他の競技では、現在乗馬競技にて同語の競技会が開催されており、日本でも多くの愛好者がチームを組んで楽しんでいる。4名以上のチームの場合、正式にはレプリーズと呼ばれるが、現在ではダンスの場合も乗馬競技の場合も4名以上のチームの、このような演技をカドリールと総称している。

(目的)

複数の人犬でトレーニングする事により、他の人犬に対する社会化教育の促進を目的とし、あわせて愛犬・愛犬家同士の絆の構築を期待するものとする。

■■■ カドリールについて ■■■

(競技科目)

カドリール (I部)

- ※ (A) オンリード ・ (B) オフリード
- ※ ルーティンタイム 2' 30"～ (最長6分以内)

カドリール (II部)

- ※ I部にて技術点及び芸術点の双方で70%以上の得点を2度以上獲得したチーム
- ※ (A) オンリード ・ (B) オフリード
- ※ ルーティンタイム 3' 30"～ (最長6分以内)
- ※ 演技内に、左脚即行進以外の2種類以上の異なるポジションでのムーブを採用しなければならない。ポジションチェンジは、全員が一度に行う必要はないが、それぞれが別々に行ってもルーティンの流れの中に違和感の無いように配置するよう心がける事とする。

イノベーション (オープンクラス)

- ※ 正式な競技としては採用されないが、カドリール競技及びK-9フリースタイル発展のための独創的なアイデアを広く募集する為に、類似したチーム演技をオープン競技として採用し、発表の場を提供する。

(出場資格)

- ※ チーム構成員の半数以上が、OPDES 会員である事。(暫定規定)

(採点) 30点満点

技術点 10点

※ ハンドリングの正確さ・構成の難易度・構成に対する表現の正確さや滑らかさなどが総合評価される。

芸術点 10点

※ 音楽との調和・ルーティンの構成・リングの効果的利用・ハンドラーの表現態度などが総合評価される。

ジャッジ評価点 10点

※ 技術的、芸術的な独創性や、観客へのアピール度などの総合的な満足度が評価される。

ポイント獲得について

※全得点の規定パーセントではなく、技術点・芸術点の双方が規定パーセントに達したチームに与えられ、昇級ポイントに達成したチームは、その競技会より6カ月以内の競技会においては現行のクラスでの出場を認めるものとする。ただしその後の競技会においては必ず昇級するものとする。

(競技規定)

- 1、4名～10名のハンドラーと同数の犬により構成されたチーム。
- 2、Q U A D R I L E X のポイントは1回以上通過しなければならない。
- 3、評価は技術点(10点) 芸術点(10点)で採点され、同点の場合芸術点の高いほうが上位となる。
- 4、リングの広さ(最大演技空間)は15メートル×15mを基本とする。
※ チーム内に半数以上の小型犬がいる場合、申し込み時に10m×10mのリンクを申告し希望する事が出来る。
※リングは1メートル以上の空間を取って、ロープ状または柵状のもので囲われる。
- 5、犬がその場でのスピンの必要とする最高距離の空間を演技空間とする。
- 6、犬は4足歩行での演技を基本とし、ジャンプや2足歩行は許されないが、スピンやウイーブ、バックウイーブ等は許される。
- 7、犬が静止の状態ハンドラーがその場を離れる事は許されるが、全体の90%以上は脚側の状態でなければならない。但し招呼は許されない。
- 8、リングの4隅角と4辺の中心点に(Q,U,A,D,R,I,L,E)の表示を設置し、同時に小さなポイントを表示する。さらにリング中央(X点)に小さなポイント表示するが、各ポイント表示設置の際は、演技に影響の無いように配慮する。
- 9、出場者において演技構成上必要な若干数のポイントの表示は認めるが、演技開始前2分以内に設置できる最小限の物でなければならない。
- 10、演技には一切の小道具・大道具は認めないが、チームを象徴するようなフラッグ等の所持及び設置は、競技前に申請許可されたものに限り使用を認められる。
- 11、首輪の装着においては、引き締めにならないような配慮をし、スパイクカラー及び他の装着物の使用は認めない。
- 12、競技に使用する音楽はCDに収録したものを、競技受付時に提出する。
- 13、リードは犬側の手で保持し、作用しないよう配慮する事。演技中リードが作用した場合減点の対象となる。

2010年10月1日より